

31年2月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成31年 2月1日～ 31年2月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
2月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)−(「減少」の評価を行った回答の割合)×2−(「やや減少」の評価を行った回答の割合)]÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		31/2月	3月	4月
伐採動向	スギ	20.0	0.0	10.0
	ヒノキ	25.0	25.0	25.0
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 16.7
	エゾ・トド	50.0	33.3	△ 50.0
出荷・販売動向	スギ	12.5	12.5	△ 12.5
	ヒノキ	16.7	16.7	16.7
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 16.7
	エゾ・トド	0.0	50.0	△ 25.0
手持立木在庫動向	スギ	△ 12.5	△ 12.5	0.0
	ヒノキ	0.0	16.7	0.0
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	エゾ・トド	△ 33.3	△ 33.3	△ 33.3

・スギの伐採動向は2月の増加から3月は横ばい、4月は再び増加に。ヒノキは3カ月連続増加。カラマツは3カ月連続減少。エゾ・トドは2月、3月の増加から4月は減少に。

・スギの出荷・販売動向は2月、3月の増加から4月は減少に。ヒノキは3カ月連続増加。カラマツは3カ月連続減少。エゾ・トドは2月の横ばいから3月の増加、4月は減少に。

・スギの手持立木在庫動向は2月、3月の減少から4月は横ばいに。ヒノキは2月の横ばいから3月は増加、4月は再び横ばいに。カラマツ、エゾ・トドとも3カ月連続減少。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・国有林内のトドマツ立木公売物件の間伐を実施している。天候の良い状態が続いていることと、林分と現場状況が良好なこともあって伐採動向は増加である（北海道）。
- ・今月中旬に請負事業が終了するので、引き続きトドマツの立木販売物件の作業を開始（北海道）。
- ・現在スギ伐出中、中旬よりヒノキの皆伐を開始（東北）。
- ・新規請負事業を受注した（中部）。
- ・主伐を実施（中国）。
- ・間伐と主伐と2班体制で作業する予定なので、伐採増加する（九州）。

(出材・販売動向)

- ・出材・販売動向は、流通材が少ないために工場の需要が多く、運材車の調達ができれば増加する（北海道）。
- ・作業開始間もないため出材量は見込めない。また3月15日以降は国有林内での作業が制限されることも影響がある（北海道）。
- ・短期的な雑木伐採の仕事をメインにこなしているため、スギ、ヒノキの出材が減っている（中国）。
- ・年度末の3月にはトラック確保できるので出材・販売は増加（九州）。

(手持ち立木在庫)

- ・手持ち立木の在庫を伐採するので、動向としては減少である。7月以降、国有林立木公売で補充する予定である（北海道）。